

# 重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム

実施者：特定非営利活動法人くすの木自然

事業名：「海の体験学習」ユニバーサル化基盤整備事業

実施期間：2023年6月1日（木）～2024年2月29日（木）



## 【事業の内容・目的】

■今回の事業では、「海に親しみたい」「海のことを学びたい」と思っている障害児やその家族が「どうすればそれができるのか？」を一緒に考え、サポートできる人材を育成することで、海にふれることのハードルを低くする体制を作ることを目的とした。

■障害をもち、海にふれることに制限のある子とその家族が、気軽に海にいける仕組みをつくり、海に親しみやすくする。

障害があるということが理由で海に親しめなかった人たちに、気軽に海にふれる機会を提供することで、海を身近に感じ、保全したいという思いを普及啓発する。

重富海岸を「どんな人」でも海を楽しみ、親しめ、海の学び(体験学習)が受けられるようにする。

## 活動の様子

### 1. 【海の体験活動ユニバーサル化研修会】

【開催日時】①・② 2023年6月3日(土)

③ 2023年6月10日(土)

④ 2023年7月2日(日)

⑤ 2023年7月9日(日)

【開催場所】重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム・重富海岸

【参加者数】①・②11人、③10人、④10人、⑤10人

【活動内容・目的】

- 「だれでも」「どんな時でも」海の学びを提供できる海岸にするために、利用者の障害の程度によって「どうすれば」体験を実施することができるかを利用者と共に考えサポートできる人材を育成する。

【活動内容・目的】

①・② ユニバーサルビーチ実践地から学ぶ

● どんな人でも海で体験活動ができるユニバーサルデザイン化された海岸の実践例を知る。

● 「どんな人」でも海の学びを受けられる体験活動の場を、提供できるようにするための考え方や、道具の使い方を身に着けることを目的とした。



海の体験活動ユニバーサルビーチ化研修会①では、日本で初めてユニバーサルビーチの活動を始めた【須磨ユニバーサルビーチプロジェクト】の方々を講師に招いた。

オンラインでは考え方や具体的な進め方をお話いただいた。ユニバーサルビーチを始めたきっかけ、日本と海外での障害者が海を親しめる環境の違いや須磨海水浴での実際の取り組みについて学んだ。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



海の体験活動ユニバーサルビーチ化研修会②では、①で学んだことを元に実技研修を実施。準備から撤収までを自分たちで行えるように、細かく指導があった。また、水陸両用車椅子ヒッポ、1枚40kgあるビーチマットの使い方やメンテナンス方法を教わりながら実際に自分たちで一から作業を行った。



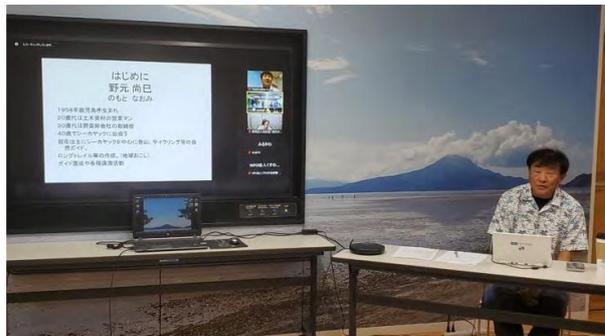
対象者役とサポーター役になり実際に海の中まで入り、入水中のサポート方法も研修した。自力では首や腰を支えることが難しい場合の工夫や技術面なども、助言を受けながら、お互いに実技を行った。

大切なのは、参加者とのコミュニケーションであり、相手は何ができて何をのぞんでいるかを聞きながら進めることが大切であるため、自分たちが当事者目線に立って準備をすることで、「海を簡単に楽しめない」人たちへのサポートを考えるきっかけとなった。

### ③リスクマネジメントの考え方と重要性

#### 【活動内容・目的】

- 障害がある人にも「海の学び」を体験として提供するためには、安全管理の視点は健常者の体験時以上に必要である。
- 安全管理の重要性や実際に安全管理を行う際の必要な視点、様々な体験活動時の安全管理の実例を学び、身に着けることを目的とした。



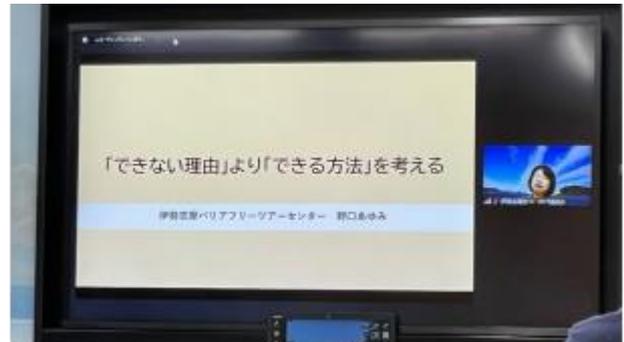
第一線で自然体験活動を提供している方を講師に招き、リスクマネジメントの重要性や、リスクを管理する考え方を学んだ。

後半では、実際にユニバーサルビーチを行う際や、自分たちの毎日の活動時の様々なリスクを自分たちが考え対処できるように、リスクの洗い出しをワークショップ形式で行ったで、「海を簡単に楽しめない」人たちへのサポートを考えるきっかけとなった。

#### ④ ユニバーサルな考え方について

##### 【活動内容・目的】

- 実際にバリアフリーツアー観光や、ユニバーサルデザインの体験活動などの斡旋を行っている視点から「海の学び」をユニバーサルデザイン化する際の視点を学んだ。
- 「できない理由」より「どうすればできるか」を考える思考の重要性を学ぶことを目的とした。



伊勢志摩国立公園で、バリアフリーやユニバーサルデザインの体験活動の斡旋や、障害があっても楽しめる観光を提供している「伊勢志摩バリアフリーツアーセンター」の方を講師に招き、これまでの実例や、海の体験活動の紹介などをお話しいただいた。

「できない」と断るのではなく、「どうすればできるか」を受け入れ側と一緒に考えることで、どのような体験も行うことができる。大切なのはサポートする人が当事者の目線に立つこととコミュニケーションをとることであることを学んだ。

これは、研修会①②の須磨の皆さんも同じことを言っており、特に大切な考え方であると受講生も感じていた。

## ⑤ 環境教育的考えについて

### 【活動内容・目的】

- 「体験活動」を持続可能な社会につなげるための「環境教育（※今回は海洋環境教育）」につなげるための考え方を学んだ。
- すべての体験活動をユニバーサルデザイン化して、すべての人が持続可能な未来をつくれるようにする考え方を身に着けることを目的とした。



ユニバーサルビーチを、海水浴で終わらせるのではなく、持続可能な社会作りにつなげるための考え方を、地域ESD（持続可能な開発のための教育）推進拠点に登録されているNPO法人の代表から伺った。

「環境教育」とは、自然を通して生き方を考えることであり、それは、健常者も障害者も関係ない。地球に生きる全員が考えないといけないことであり、体験活動がその原体験に繋がることをお話しいただいた。

ユニバーサルビーチでの体験を通して、多くの方が海をとおした持続可能な社会のあり方を考えるきっかけにするためには、サポーターとなる方がそれを意識して伝えることが必要である。海水浴ではない「海の学びに繋がる体験活動」を行っていく共通認識をサポーター全員が得る機会となった。

### 【参加者の声】

- 回答内容A 実際に海を感じた人は、また遊びたいと思えるパワーが海にはありそう。
- 回答内容B 人を集める活動において自然に対し敬意をもって活動していくこと
- 回答内容C 海に囲まれた国であっても主体的に関わりをもつためにどうしたらいいかを考えるいい機会だった。生命の源である海を大切にしていきたい

## 2. 【海の体験活動ユニバーサル化体験会】

【開催日時】 2023年7月25日  
2023年8月20日  
2023年9月7日  
2023年9月18日  
2023年9月21日

【開催場所】 重富海岸

【参加者数】 61人

【活動内容・目的】

- ①の研修で、海の体験活動をユニバーサルデザイン化するための考え方や基礎を学んだ人々が中心となり、障害児とその家族向けに、海の学びに精通する海辺の体験活動を提供する。
- 障害者を家族に持つ人や実際に海で体験を行うことに抵抗を抱えている人々に、海に入る機会を提供することで、海に親しみを持ってもらい、海の保全活動に対する意識を啓発することを目的とする。



今回、ユニバーサルビーチの体験会を行うことを告知した際、地域の方々が「子どもたちに体験させてほしい」と、青少年育成活動の一環で体験会を企画した。

「障害がある」という理由で、体験活動ができない人も、周りの人のサポートがあれば一緒に楽しめるということを多くの地域の親子に体験してもらえた。

サポーターとして登録している方々が、実際に障害を持つ当事者の対応をする前に、ユニバーサルビーチの運用を練習する機会になった。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等できません。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



ユニバーサルビーチ体験会では、5グループ26名の方が参加した。  
十数年ぶりに家族で海に入った方、二十年ぶりに友人と泳いだ方、初めて家族で海に入った方など、いつもは海に入ることが難しい方々やその家族・友人ばかりだった。体験したすべての方が「海ってこんなに気持ちいいんですね」と感動して涙を流していた。  
サポーターも回を重ねるごとに、準備や参加者へのサポートも上達し、参加者と一緒に楽しむことで「こんな貴重な体験ができる場所には他にない！いつまでも残さないといけない」と、海岸や海への保全意識を高めることができた。

### 【参加者の声】

- 回答内容A 楽しめる海が身近にあること、海の生き物、すべてを大事にしたい。
- 回答内容B 海はみんなのもいなのですべての人にとって遊べる場所であってほしい。
- 回答内容C 遠くまでいけて楽しかった。
- 回答内容D 健常者でも障害者でも正しく安全対策を行えば海水浴の楽しみを共有する事ができる事を学ばせてもらいました。
- 回答内容E 夏はプランクトンが増えるため海水が濁ることを学べた

### 3. 【海の体験活動ユニバーサル化報告会】

【開催日時】 2024年1月21日（日）

【開催場所】 重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム・重富海岸

【参加者数】 175 人

【活動内容・目的】

- ②の体験活動の様子や①で学んだ研修の様子など、知ってもらう機会を目的とした
- 海岸にてユニバーサルビーチの体験会もおこない実際に見て体験してもらう場として実施した。



報告会では、①・②の研修会、体験会での活動を多くの参加者に知ってもらうために開催。ユニバーサルビーチとは？ということで私たちがユニバーサルビーチを始めたきっかけの話や、障害者が海で活動や体験することの難しさを伝えることのできた場となった。また、サポートがあれば障害があっても海での体験をすることも伝えることができた。参加者の中には遠くからは離島からの参加もあり、質問などが多く興味関心がを高まっていることを実感した。自然体験のユニバーサル化の必要性をあらためて実感できる報告会となった。



報告会と共に、体験会（海にはいかない）も実施した。映像や言葉だけとは違い、実際にユニバーサルビーチの体験をみてもらうことで、よりユニバーサルビーチを知ってもらえる機会になればと考えた。また、サポーターを増やすためにもまずは知ってもらうことの必要性を感じた。水陸両用車椅子や、砂浜用ビーチマットなど道具とサポーターの力で、今まで海での体験を諦めていた人たちが体験することができることを知ってもらう機会になった。

### 【参加者の声】

- 回答内容 A 私たちの暮らすに直接海に入らなくても、食でつながっていると改めて感じられた。海って素敵だなと素直に思いました。
- 回答内容 B 身の回りの建物や道具のバリアフリーやユニバーサルデザインしか頭になく、だれもが当たり前の未来づくりとして「海を楽しむ」「親子で海に」そんな世の中のものになっていったらと強く願う。
- 回答内容 C 自分にとっては常に身近な存在の海も、立場や環境の以外から近づくことさえない方々がいることは、とてももったいなく、広く海の存在を知ってほしいと感じた
- 回答内容 D 「海」を知り、体験することは誰にでも執拗なことで、そのチャンスが奪われてはいけないと思いました。

## 【事業全体のまとめ】

今回の事業で、ユニバーサルビーチを本格始動することができた。

「どんな人でも」を合言葉に障害を理由に、海での学びや体験をすることが難しかったり諦めていたりする人たちや、その家族も含めて対象にした事業であった。

障害のある人たちと一緒に海に入りサポートをする人を募集した人材育成では、ユニバーサルビーチの基礎や技術面の講習はもちろん、自然体験において一番重要である安全管理や海での活動のうえで知っておきたい環境教育的な視点の学びなどサポーターがまずは学ぶ重要性を再確認することができた。

夏には研修会を終えたサポーターと共に体験会を開催。障害の程度は、違っても一人一人、本人の気持ちや家族の考えを大切に海に入ることを行った。

今までは、砂浜に行くことさえも難しかったり、家族だけが海を楽しみ遠い場所で眺めるしかなかったりと、それぞれに海に触れたいという思いがありながらも体験できなかったことが、今回、体験できると喜んでる姿をみると、環境や道具、サポートがあればできることは増えると実感することができた。

研修会、体験会を経て活動をやる意味と成果をいろんな人へ知ってもらう場として報告会を開催した。様々な人たちが足を運んでいただき興味関心をもっていただけていることを実感できた。ユニバーサルビーチの取り組みはもちろんだが、障害者がなぜ海での活動や体験が難しいのか、諦めているのかを知ってもらう機会となった。

障害があってもなくても、一緒に海での体験や活動をすることで海での学びを知ることができる。それは本人のみならず一緒に参加する家族にも海を親しんでもらい、また海の大切さを伝えられる機会になった。

サポーターも最初こそ「サポートをする側」という認識だったかもしれないが、体験会で体験者の人たちと関わることで「海と一緒に楽しむ」とうサポートに代わり一緒に海を感じることもできた実感している。

## 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. NPO 法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト	海の体験活動ユニバーサル化研修会 第1・2回目講師
2. かごしまカヤックス	海の体験活動ユニバーサル化研修会 第3目講師
3. NPO 法人伊勢バリアフリーツアーセンター	海の体験活動ユニバーサル化研修会 第4回目講師
4. NPO 法人HBU&LABO Yakusima	海の体験活動ユニバーサル化研修会 第5回目講師
5. 重富校区コミュニティ協議会	活動の子ども達への発信協力
6. 合同会社UDラボ	活動の普及、参加者募集の協力

※主に教育機関や地域団体、他館などを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

## 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. ラジオ あいらびゅーFM	「ばくふら」(くすの木自然館 浜本麦 担当ラジオ 番組)計4回
2. ラジオ あいらびゅーFM	「子育てラボ」(くすの木自然館 浜本麦・UD 担当石神愛梨 出演ラジオ 番組)計6回
3. MBC ラジオ	「錦江湾のなぎさから」(くすの木自然館 スタッフ出演ラジオ番組)計3回

4. MBC ラジオ	「福祉のラジオ！」ラジオ番組 (2023年6月22日・29日) 放送
5. 南日本新聞	(2023年6月8日・2023年9月13日) 掲載
6. 鹿児島読売テレビ	「KYTevery.かごしま」(2023年9月21日) 放送
7. MBC テレビ	「かご4」(2023年9月4日) 生出演
8. NHK 鹿児島	「情報WAVE かごしま」(2023年9月14日) 生出演

※TV・新聞・雑誌等、主なものを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。